

Sumitomo Foundation News Vol.18

公益法人はどう生きるか

年明け早々大きな災害に見舞われました。能登半島地震及び羽田空港事故の犠牲者の皆さまのご冥福をお祈りします。一方で、宮崎駿監督によるアニメーション映画「君たちはどう生きるか」が、日本作品としては初めて米ゴールデングローブ賞を受賞したという明るいニュースもありました。映画の内容とは無関係ですが、この「君たちはどう生きるか」という言葉は、私たち公益法人にも突きつけられている言葉のような気がしています。

2008年に現在の公益法人制度が施行されてから15年が経過していますが、現在、2025年の施行を目指して法改正の検討が進められています。変更内容としては、収支相償及び遊休財産規制の見直し、認定・変更申請に伴う行政手続きの簡素化等が挙げられており、「新しい資本主義」をかたちづくるものの一部として、公益法人が社会において重要な役割を果たしていくことが期待されています。

住友財団も、現在プログラムの見直しを行っております。本当に「時代の要請に適った助成」(定款第3条)を行なえているかどうかを検討し、既存プログラムの内容見直しに加えて、新しいプログラムを立ち上げることも検討中です。内容に関しましては、詳細が固まり次第都度本紙面上でもお知らせしていく予定です。

今号では、今年度実施した修復文化財展示支援助成3件の様子を、次頁以降でご紹介いたします。今年度は、「その他助成」の枠内で実施しましたが、今後は新規プログラムとして定例的に実施することを準備中です。(日野)

〇スケジュール

2024年	通常国会	改正法案提出
2024年度中	政省令・ガイドライン改正、	会計基準の見直し等
2025年4月	改正認定法令施行	
2026年4月	新公益信託法令施行	

〇改革案のポイント

- 公益目的事業の収入、遊休財産額の保有制限、公益法人の計算等に関する規定の見直し
- 公益認定基準、欠格事由、変更認定の対象の見直し
- 透明性の向上

主な活動内容 (2023年11月～2024年1月)

11月	アジアにおける日本関連研究助成 選考専門委員打合せ
12月	国内外文化財維持・修復事業助成 選考委員会(第一回)
1月	アジアにおける日本関連研究助成 選考委員会 国内外文化財維持・修復事業助成 選考委員会(第二回)

修復文化財展示支援助成

財団の助成により修復を終えた文化財はできるだけ広く公開していただけるようお願いしております。「修復を終えた」時点は、その文化財に興味を持っていただけるよい機会であり、文化財の価値を再認識いただいたり、修復にも関心を持っていただけるチャンスであるからです。しかし、現実には経費面の問題等もあり、修復文化財を博物館等の施設で展示いただける例は限られているのが現状です。

こうした中、住友財団では、修復文化財の展示公開を拡大していくために、展示事業への助成を進めていくことを考えております。その試みとして、できるだけ多くの方に来場いただける博物館等の公開施設での展示を対象として、国内文化財2件、海外文化財1件の修復文化財の展示支援助成を2023年度は行いました。展示にあたっては、修復に関するパンフレットやパネルの作成、またイベントの開催もお願いしました。ここでは、その事例を紹介します。

1. 保存修理完了記念「崇禅寺伝来墨跡」－保存修理の技がつなぐ文化財－

- 期間 2023年11月1日～12月10日
- 場所 土岐市美濃陶磁歴史館(岐阜県)
- 展示 「紙本墨書 此山妙在墨跡」
「夢窓国師筆 果山条幅」
(いずれも崇禅寺所蔵)
- 特徴 ①展示会場には、修理に関するパネル、修理の道具や材料も展示されました。
②展示会のパンフレットは、修理に関する解説が全面に盛り込まれました。
③修理をテーマにした2つの関連イベントが開催されました。

①展示会場の様子



②リーフレットの一部



③関連イベント

- ・ナイトミュージアム
「保存修理担当者によるスライドレクチャー」



- ・トークセッション
『地域の文化財をつなぐ』 at 崇禅寺



2. 修理完成記念特集展示「泉穴師神社の神像」

- 期間 2024年1月2日～2月25日
- 場所 京都国立博物館 平成知新館
- 展示 重要文化財 木造神像26軀（泉穴師神社所蔵）
 - *木造神像83軀のうち80軀が重要文化財に指定されており、本展ではそのうちの26軀が展示されました。展示に伴う文化財保存上のリスクなども考慮されて展示対象が決められました。
- 特徴
 - ①所蔵者は泉穴師神社（大阪府泉大津市）ですが、そのご理解と関係者のご協力により、京都国立博物館での展示となりました。
 - ②展覧会のパンフレットや展示会場のパネルには、修理に関する解説が盛り込まれました。
 - ③京都国立博物館の土曜講座に本展示の関連講座が2講座企画され、文化財の説明に加え、修理の意義や内容、修理時の調査で発見されたことなどが取り上げられることになりました。
 - ・1/13(土) 泉穴師神社の神像
 - ・2/3(土) ポータブルX線分析装置による泉穴師神社所蔵神像の彩色材料調査

リーフレットの一部



3. 堺市博物館特別展「都市の祈り～住吉祭と堺」の開催

2018～2020年度助成のサンフランシスコ・アジア美術館所蔵「住吉祭礼図屏風」(六曲一双、江戸初期)の修復が完了し、堺市博物館所蔵の「住吉祭礼図屏風」や関連資料と併せて昨年11～12月に特別展が開催されました。住友財団は、特別展の開催にあたり、修復展示助成として費用の一部を助成しました。

住吉大社の住吉祭は、関西の夏祭りを代表する祭りです。「住吉祭礼図屏風」は、祭のハイライトとして神輿が住吉大社から堺の御旅所まで練り歩く神輿渡御の行列を描いたもので、昔日の堺の町並みや当時暮らした人々も生き生きと描写された風俗画です。

海外美術館所蔵のため普段は日本で見られないものであり、かつ日本での修復が終わったタイミングでの公開であったことから、地元からも多くの人々がご来館され、また、修復に関するギャラリートークや住吉大社と堺市博物館共同によるシンポジウムにも参加されて熱心に聞き入っておられました。



- ◆写真左: 修復が終わった「住吉祭礼図屏風」の前でのギャラリートーク
- ◆同右: 住吉大社(吉祥殿)で行われたシンポジウム

海外文化財維持・修復事業助成

■ポズナン国立博物館(ポーランド)所蔵「阿弥陀如来像」の修復開始

ポズナン国立博物館には2022年度から3か年計画で「阿弥陀如来像」の修復事業に対して助成を行っておりますが、昨年10月、主要部分の修復を担う牧野氏(吉備文化財修復所)らが同地を訪れ、初年度の修復作業を実施しました。同仏像は、平安末期の制作と考えられるもので、第二次世界大戦の戦禍から奇跡的に残った貴重なものです。



今回の修復作業は、日本の専門家が関与するポーランドで初めての本格的な仏像の修復として注目され、多くの新聞やTVで報道されました。特に古い仏像の辿った歴史やその修復の困難さに加えて国際協力の大事さに関心を集めております。同国は、欧州の親日国として知られておりますが、日本とポーランドの国際的な共同事業として好意的に受け止められているようです。

- ◆写真左: 牧野氏による修復作業
- ◆同右: テレビ局の取材を受ける修復担当のKokoc氏

■シンポジウム「世界文化遺産の50年:日本の貢献のこれまでとこれから」ポスター展示

1月20日京都大学にて文化遺産国際協力コンソーシアム(JCIC)主催の世界遺産条約制定50周年記念シンポジウムが開催されました。住友財団は、JCICの運営に協力しています。ユネスコからはオットーネ文化担当事務局長補が参加、世界遺産に対する日本の貢献について紹介があり、今後のあり方についても活発な意見が交わされました。住友財団は、シンポジウムに参加するとともに、助成中のプロジェクト(トルコ、エジプト、ウズベキスタン)のポスター展示により、公益法人による文化遺産保存への貢献を紹介しました。

会場に展示されたポスター



アジア諸国における日本関連研究助成

2023年度の応募は昨年10月末に締め切りました。応募数は853件(前年比253件増)、応募金額は約12億300万円(同4億6600万円増)と過去最高となりました。国別ではマレーシアから426件(同76件増)、インドネシアから254件(同176件増)と、同2か国で全体の8割を占めています。

2006年度以降の国籍別申請者推移は下のグラフのとおりとなります。マレーシア・インドネシアの2か国からの申請は当時の24倍となった一方で、東アジア(中国・韓国・台湾)からはここ数年(コロナ禍以降)ピーク時の1/3に減少しています。その時々各国と日本との関係を反映した結果でしょうか。

今回マレーシア担当の専門委員を4名にインドネシア担当を3名に増員した計13名の専門委員による一次審査を通過した申請を、現在2名の選考委員が最終審査を進めており、3月の理事会にて助成対象が最終決定される予定です。

